

検査部創立50周年記念式典

— 中原一彦教授退職 —

検査部

矢 富 裕
池 田 均
戸 塚 実

お陰様で、私ども東大検査部は、本年創立50周年を迎えることができました。また、本年3月をもちまして定年退職されました中原一彦教授は、ちょうど創立40周年の年にご着任されましたので、まさにこの10年、東大検査部は中原先生とともに歩んだこととなります。東大検査部の歴史を振り返り、また、この10年検査部の発展に御尽力いただいた中原先生に感謝申し上げ、加えて、検査部の将来を展望させていただくべく、2005年10月22日午後4～8時、学士会館において上記記念式典を開催させていただきました。土曜日で悪天候にもかかわらず、約160名の方々のご出席をいただきました。

池田均（副部長）の総合司会のもと、まず、最初の2時間は、記念講演会として歴代検査部長、現役検査部長・技師長が講演させていただきました。山中學元部長、大久保昭行元部長のお話からは、幾多の困難を乗り越えて現在の検査部の基礎を築かれた諸先輩のご苦勞、そして、東大検査部の歴史の重みを実感させていただくことができました。また、中原一彦前部長からは、検査部さらには中央診療部門にとって厳しい状況が続いたこの10年間を振り返っていただきましたが、改めて、輸血部、感染制御部、病理部とのいわゆる四部体制の実現に努力されるなど、中央診療施設における検査部門の発展強化に多大な貢献をされました中原先生のご苦勞が実感されました。次に、昨年4月に信州大学から東京大学に赴任した戸塚実（技師長）より、東大検査部の現状紹介とともに、外から見た東大検査部への期待感の話、本年4月に就任した矢富裕（部長）からは、東大検査部の将来展望の話をしていただきました。

午後6時から2時間は、懇親会を開催させていただきました。まず、廣川信隆研究科長、名川弘一副病院長から、ご祝辞を賜りました。東大の検査部への期待感、さらには、中原先生への感謝のお気持ちを、お心のこもった言葉でお話しになりました。次に、山中先生のご発声で乾杯となり、以後は、なごやかな雰囲気の中、会は滞りなく進行しました。日本の臨床検査をリードされてこられました河合忠先生（自治医科大学名誉教授・国際臨床病理センター所長）、さらには、現在、日本臨床検査医学会会長の要職を務めておられる渡辺清明先生（慶應義塾大学名誉教授）からご祝辞を賜りました。東大検査部に対するご自身の思い出や期待感、そして、中原先生に対する感謝のお気持ちを述べられました。また、永井良三病院長、勝山努信州大学病院長をはじめとして、多くの方々からお心のこもった祝電を賜り、これを披露させていただきました。

その後、中原先生から、ご挨拶をいただきましたが、誠心誠意努力されてこられたこの10年間そのままのお話でありま

した。改めて感謝の念を抱きましたのは、私どもだけではなく感じております。お話の後、中原先生とご苦勞をとみにされた眞重文子前技師長から花束の贈呈がありました。

最後に、矢富が閉会の辞を申し述べさせていただきましたが、改めて、東大検査部の諸先輩が我が国の臨床検査医学において果たしてこられた重大な役割を実感するとともに、その責任の重さを痛感した次第であります。

多くの方々のご協力のお陰で、冒頭に述べさせていただきました本記念式典の目的は十分に達成することができたと考えております。検査部一同、中原部長時代からのスローガンである「**奉仕・協調・前進**」の精神を忘れることなく最善を尽くすつもりです。今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



花束を受け取られた中原一彦先生

中原一彦教授、検査部この10年の歩み

- 平成8年 生理機能検査室の整備・移転
生理機能検査室総合受付設置
技師の中央化
検査部・輸血部・病理部の一体運営
- 平成9年 「東京大学医学部および附属病院における改革案」の策定
- 平成10年 総合検体検査搬送システム予算認可
- 平成11年 **総合検体検査搬送システム稼動**
- 平成12年 輸血部と合同で技師による輸血当直開始
- 平成13年 細菌検査室を感染制御部のもとへ移設
本院と分院の統合、新入院棟の完成
中型搬送システム、緊急検査エアシュータ開始
消化器内科へ腹部超音波技師派遣開始
- 平成14年 東京大学医学部附属看護学校の閉校
病棟検査部門の新設
国立大学附属病院間での技師人事交流開始
国立大学医学部附属病院マネジメント改革案（提言）
- 平成15年 病棟に翌日検査予定の採血管準備開始
- 平成16年 国立大学の法人化